



# 琉球玩具 通信



No. 1

2025.01.25.

## 琉球玩具に関する情報共有と記録の広場

### 目次

「琉球玩具 通信」の発行にあたって.....西平 守孝.....1  
 私たちの玩具作り遊び（予告）.....上運天 賢盛.....2  
 クバの葉の凧について.....仲間 清隆.....3  
 「動く張り子」の作り方①.....與儀 誠一.....4

子どもの頃の遊びの思い出①.....国吉 真隆.....6  
 リーフクラフトを八重山の新しい文化に！①.....谷崎 樹生.....7  
 身近な植物で草玩具を作って遊ぼう①.....西平 守孝.....8

### ●「琉球玩具通信」の発行にあたって

琉球玩具と呼ばれる手作り玩具は年を経るにつれて相対的に廃れてきたようで、これからもその傾向は進むと思われる。特にそのことを残念に思っているのは、その昔まだ子供だった頃に手作り玩具で遊んだ経験をお持ちのお年寄りの方々に多いようです。今では、時に地域の公民館などのイベントとして、草玩具づくりが取り上げられることがありますが、そのことがこの状況をよく示しているでしょう。そのような昨今の状況に鑑み、今まだ多くの人々の記憶に残っている手作り玩具やそれらを用いた遊びなどを記録し、実際に作り方を習得するだけでなく、それらを次世代に繋いでいくことが有意義ではないかと考えられます。この通信が、少しでもそのような状況に対応する際に役立つようであれば、とてもうれしく思います。

地域によりまた年代によって、特に草玩具などの場合は、作り方も遊び方もそれらに用いる素材にも、さまざまな違いがあるのではないかと思います。恐らく、これが正しい方法だというようなことはなく、皆それぞれにいろいろな作り方や遊び方があったことをそのまま記録しておくのがよいのではと思います。また、どれが正しいかなどと詮索するのではなく、ただただここではこうだったとあるがままに淡々と記録し、自ら作り方を習得し、広めつつ引き繋いでいくことが重要ではないかと感じられます。

そのような状況を認識した上で、

- ① さまざまな琉球玩具と遊びを記録し、
- ② それらの作り方や遊び方を習得し、
- ③ 琉球玩具を広く世に広め、
- ④ 願わくば次世代に引き継ぐ



琉球手まり

という願いを込めて、今も現に身の回りにある、または以前にはあったという琉球玩具の作り方や遊び方について、興味や関心のある人たちの経験や提言などの情報を記録・共有し、共に楽しみつつ活動していければと考えて、この通信を発行したい思うようになりました。琉球玩具を広く捉え、昔ユッカヌヒーに販売されてたというセミプロが作ったような玩具のみならず、多くの人たちが自分や自分たちのために、作って遊んだ伝統的なものだけでなく、新たに創作した草玩具などにまで広げて、地元沖縄に関連するものを取り上げればと、音頭取りの役割を買って出ようと思います。

主宰自身高齢者であることゆえ、どの程度この通信を発行し続けられるか予断できない状況ではありますが、まずは始めて見ることにしたいと思います。琉球玩具に関心と興味をお持ちの方々の参加と協力を得つつ、この願いの達成に向けて先鞭を取る役割を果たしていければ幸いです。皆様方の参加と協力をお願いする次第です。

手作りの琉球玩具に興味と関心をお持ちの方々の情報や想いの集積と共有の役割を担うべく、開かれた自由な広場としての役割を「琉球玩具通信」が果たせればとても嬉しいと思いますし、自由な情報発信の広場として活用していただければ幸いです。多くの方々に執筆を依頼することもあるかと思いますが、その際にはよろしくご協力いただければ幸いです。それがうまくいかない場合や特段記事がない場合は、やむなく主宰自身が書くこともあろうかと思いますが、なるべくならお寄せいただく皆様からの情報提供の処理に追い付けず、そのうち困るような事態になれば願っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

2024.9.9.  
 琉球玩具通信 主宰  
 西平 守孝

● このパンフレットは、基本的には pdf をメールで、メールを使わない方には郵便でお届けしたいと思います。

## 私たちの玩具作り遊び（予告）

若かったころに、琉球玩具の大御所として古倉翁（古波蔵翁）の工房を見学させてもらったことがあります。張り子づくりはしませんが、私達は現在各地発祥の木工玩具作りや遊びに熱中しています。多くは北欧発祥の玩具ですが、その影響を受けて江戸時代の玩具も手掛けることがあります。

1980年代に沖縄県レクリエーション協会に加入し、会計監査役として務める傍ら、30数名のメンバーで毎年のように協会のもとで風を含め多くの玩具を広め、楽しんできました。コロナ禍で活動は廃れ、協会のもとを離れて現在に至っています。現在は4名のメンバーで、動くおもちゃや頭を悩ますパズルなど、細々と玩具作りを続けて楽しんでいます。小黒三郎さんや芦ヶ原伸之さん、マイアミ大学のホフマン教授などの著書を参考にさせてもらっています。



沖縄県レクリエーション大会での記念写真

次回から、それらの中からいくつかを取り上げて紹介させていただき、玩具作りの楽しみの幅を広げていただければと思います。竹や木切れや空き缶などを使い、ちょっとした道具で作ることができますので、チャレンジしてみたい方がでしょうか。ご参考までに、この先取り上げて紹介したいと考えている玩具のいくつかを以下にお示しておきたいと思います。

### 1) これまで作ってきた玩具のかずかず（抜粋）

下に示す玩具は、いろいろな人たちが考案したものを手本にして作ってみたものです。作ってみようかと思えるものがありましたらチャレンジし、それを使ってご自分でも子供たちと一緒にでも、お遊びいただければと思います。次回からいくつかを取り上げたり、ここには示していないものも含めて、順次紹介していく予定です。



#### ここに示した玩具の説明

- ① 「独楽」と「小鳥笛」は、世界中に昔からあるということで、小石・木の実・貝殻などいろいろな材料で作られた。「CDの独楽」は、東京の土産店で見たものをまねて作ってみた
- ② 「竹トンボ」は、日本生まれ。1720年代、江戸の大工が我が子に暇つぶしに作ったといわれるのが始まりで、明治になってポルトガル、スペイン、アメリカに伝わり、今では世界中で遊ばれているという
- ③ 「坂道を下り歩く牛」は、私の生まれ故郷・南洋サイパンで、子どもの頃現地の人（スペイン人）に教わった。象・牛・山羊・鶏だったと覚えている。オモチャの会ピノキオでは、干支の動物以外の動物も作っている
- ④ 「松葉パズル」は、織田信長の時代に伝来したと言われていた。ホフマン教授は「悪魔の末端」として世に出したが、私はこれを簡単のように作り変え、形が松葉杖に似ていることから「松葉パズル」と名付けた
- ⑤ 「パラボックス」・「ハートパズル」・「参加苦パズル」・「六扇パズル（額詰めパズル）」は、芦ヶ原伸之の著書を手本にして作ってみた
- ⑥ 「ブンブン蟬」は、台湾の空港売店で買い求めたものを、私流に簡素化したもの
- ⑦ 「スネークトラップ」は、仕掛屋定吉（しかげや さだきち）著の作品から蛇年に因んで真似た。今年は巳年、縁起が良いと思って作ってみた



かみうんてん けんせい  
那覇市首里鳥堀町在住

多くの国では竹ひごなどの骨と紙やプラスチックのシートを使って凧を作ります。海洋の島国の多くでは、木の葉で大きめのものや何枚かの葉をつなぎ合わせ、必要に応じて支えを加えたりして凧に仕立てています。

沖縄では、大きな葉をつけるクバがありますが、クバオージなどの民具はごく普通のクバの葉を活用したのですが、その葉を使って凧を作る人はいませんでした。クバの葉は、いろいろな手工芸品、民具の素材としては利用されていますが、凧にして揚げてみようと思いついた方はいなかったらしく、他の木の葉の凧同様、伝承には至らなかったようです。



これまで作ってみたいいろいろなクバの葉の凧

私がクバの葉の凧を作るきっかけも、村の大先輩故崎原正雄さんが、ミノや笠を作るために採集し乾燥させてあったクバの葉の若くて軽いものをくださったときに、「凧にしてみますね」と安請け合したところ、「うまくできればよく上がると思うよ」と発破をかけられたからでした。

ここでクバの葉の凧作りについて紹介したいと思いますので、どうぞ山歩きなどのついでにクバを見かけたら採取し、凧作り挑戦してみてください。一風かわった面白い凧ができることでしょう。

## 1) 材料の準備と前処理

どのような凧でも、基本は軽くて丈夫であることにつきます。その点で、生長し切ったクバの大きな葉は凧作りには硬すぎて重いため、適しているとは言えないでしょう。軽くてあまり大きくないものを選ぶとすれば、直射日光の当たらない日陰の小さなクバの木の葉ほどよいように思えます。凧作りの材料としては、そのような場所に生えている小さめの葉を選ぶことが必要です。

そのような葉を採取し、クバオージを作るときのように、広げて重しをして伸ばし、乾燥させます。クバの葉は、凧作りの用途によってそのまま使ったり、部分を切り取って組み合わせて使ったりするとよいでしょう。



空高く上がったクバの葉の凧  
(1本糸目)

## 2) クバの葉の凧の作り方

糸目を多くとり、尾尺(じゅうしゃく)に尾をつければ凧は上がるものであることは、これまでの凧作りの経験から分かっていました。しかし、クバの葉の形状が自然の尾がたくさんついているように見えますので、尾なしでしかもできれば糸目も一本でと欲張ることにしました。数をこなすことで糸目中心を見つけるコツをつかめるようになり、今に至っています。

おかげで、クバを重ねたり、連ねたり、葉の形の悪いものはハサミで切りこんで加工し、立体凧にするなどして楽しんでます。

### ① 骨組み

小さな葉を使うとはいえ、必要に応じて裏側に骨組みを添えると補強になってよいでしょう。骨組みには竹ひごを使います。クバの葉をヤジロペー同様に指先で支え持ち、左右のバランスの取れた支点を通して縦骨を取り付けます。次に葉を反らせるための横骨(=曲骨)を凧の上部で縦骨と直角に交わるように取り付け、縦骨からV字状に斜骨を取り付けます。斜骨は、葉の上部(頭部)の形を整えるためのもので、V字骨を補助するためのものですが、葉の形状に応じて増やすこともあります。

このように骨組みの基本は三角形で下すぼみにします。もし凧の下端に尾尺を取り付けたお場合は、凧の下端に中骨と直角に横骨を1本加えておくともよいでしょう。

最初から1本糸目にするのは難しいかも知れませんが、尾を付け、糸目も3本から始める方がよいかも知れません。

### ② 1本糸目の取り方

クバの葉の凧の究極の形として、1本糸目に挑戦してみましょう。1本糸目は創作凧に多く、私の考案した「やっぴい凧」もそうです。多くは左右対称の凧で、糸目位置を上下にスライドさせ、尾を取り付けて凧が振れないようにしています。1本糸目の面白さは微妙な位置で凧が羽ばたいたり、滑空したりするところです。糸目点は、今のところ、いろいろ試しながら試行錯誤的に決めているのが実情です。

ちなみに「やっぴい凧」は一本糸目が基本で尾なしですが、操縦したい時は2本糸目、安定飛翔させたい時は3本以上の複数糸目にするなど作り手が好きに決めるとよいでしょう。

今回は「やっぴい凧」について紹介します。



古いクバの凧(破れたところを和紙で補修) 竹ひごは針と糸を使って縫い付ける。まず結びを固定し、糸の輪をぐらして針を進め、最後にしめつけてしっかり結ぶ

なかま きよたか  
石垣市宇宮良在住

紙などで出来た張り子は中空で軽く、形も自由に作ることができます。昔からあったものを作るもよし、まったく新しいものを創作するのもよしでしょう。琉球玩具には、古くから錘りを利用して首や羽を動かすものや、起き上がり小法師(ウッチリクブサー)などのように、重力を利用して制御のきかない不規則な動きをするものもありますが、それらは残念ながら短時間で動きが止まってしまいます。また、張り子自体が自ら位置移動をすることはできません。

私は、身近にある材料(100円ショップで買える時計、マグネット、玩具用のモーターなど)を使って、比較的長い間継続的に動く琉球張り子を作って遊んでいます。ここではそれらの一部を皆さん方に紹介し、動く張り子の作り方をお伝えしたいと思います。工作に使う琉球張り子は、以前沖縄美ら島財団総合研究所職員であった西平守孝氏が主宰したワークショップ「琉球玩具への招待」に参加した経験で得たことを、参考にして作ったものです。

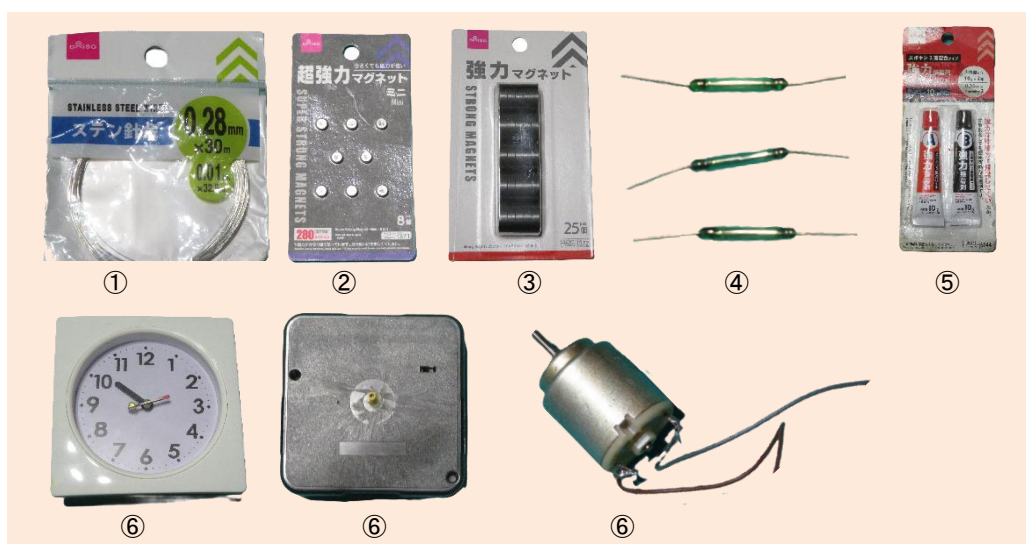
## 1) 張り子を継続的に動かすための外力利用

張り子を安価な装置を使って継続的に動かすには、外から加える動力が必要です。手っ取り早いのは、乾電池で動く安価な時計の秒針の動きを利用することです。長針や短針はそのままでは動きが遅く(いうまでもなく長針は1時間で一回転、短針は12時間で1回転)、1分に1回転する秒針はトルク(回転時に働く力)が小さくて、せいぜい 3 g 程度の張り子しか回転させることができません。しかし、秒針に小さな強力マグネットを貼り付け、張り子にも(秒針のマグネットと反発するような向きで)強力マグネットを貼り付けておいたり、張り子を一方の錘として他の腕に錘を取り付けてヤジロベエのように立つようにしておくか、張り子自体をヤジロベエにしておけば、秒針のトルクが小さくても張り子を動かすことができますでしょう。

また、張り子に小さなマグネットまたは小さな鉄製のナットを取り付けて、それを時計の上に置いたガラス台の上に置いても、張り子を動かすことは困難です。ガラスとの摩擦が秒針に取り付けた磁石と引き合う力に勝り、秒針は止まってしまうからです。それを防ぐために、秒針の軸にモーターを取り付けておけば、時計の裏側の時刻合わせのダイヤルが高いトルクを示すようになるため、これをうまく利用して磁石を付けた張り子を動かすことができますでしょう。

時計を利用せず、玩具用のモーターで回転する装置を作れば、やや重い張り子でも動かすことができます。時計の秒針にマグネットを取り付けたものにリードスイッチをつなぎ、タイマーを経てモーターの電源に繋ぐと、1分間に数回回転させることができます。この装置では、乾電池の消耗も抑えることができ、長時間張り子を動かすことが可能になります。このように、身近にある材料をうまく使って、アナログ工作をして張り子を動かしてみましょう。

これらとは別に、モーターで振動する装置を作り、これを利用して張り子をランダムに動かすこともできますので、チャレンジしてみましょう。その方法については次回紹介したいと思います。



「動く張り子」作りに使用する材料 (張り子そのものは別にとっておきます)  
 ① ステンレス針金; ② マグネット, ③ リードスイッチ, ④ 接着剤(エポキシ系), ⑤ 時計, ⑥ モーターなど

## 2) おもちゃの時計で張り子を動かす

張り子を持続的に動かすためには、今のところ張り子に外から何らかの力をかける必要があります。そのためには磁石の反発を利用し、磁石を持続的に動かす(回転させる)装置として、時計を使うのが手っ取り早い方法でしょう。今回は100円ショップで購入できるおもちゃの時計を利用して、張り子を動かす装置を作ってみましょう。

次回は振動などを利用する方法を考え、うまくいくかどうかを試してみたいうえで、紹介したいと思います。

### ① 軽い張り子を使う

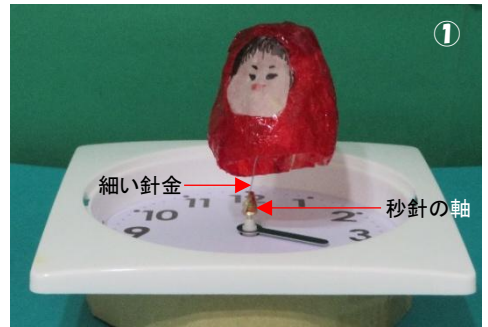
時計の秒針の軸に 0.55 mm のステンレス針金を取り付け、その上に重さ 3 g 以下のセロハンなどで作った「ウッチリクブサー」を乗せると、軸は秒針の動きによって1分間に一回転させることができます。そのような装置で張り子は長時間回転し続けます(①)。しかし、3 g より重いものを乗せると秒針は止まってしまうから、あまり重量のあるものは乗せられず、秒針が止まらない程度の軽さの張り子を用いることが肝心でしょう。

### ② 張り子を水に浮かせる

「鯉乗り童子」の底にマグネットを貼り付け、下面の台座になる時計の秒針にはマグネットを貼り付けます。時計の上に水を張った皿を乗せ、それに鯉乗り童子を浮かせておけば(②)、水面と鯉乗り童子の摩擦がとても小さいため、秒針の動きに対応して鯉乗り童子が移動します。

### ③ 張り子をヤジロベエのようにする

鯉乗り童子を片方に、他方に磁石を取り付けて作ったヤジロベエを台座に中心に置けば、台座の下にある磁石を貼りつけた秒針の動きにつれて、鯉乗り童子はヤジロベエの支点を中心に回転します(③)。



おもちゃの時計の上に乗せた「ウッチリクブサー」(上)が、秒針の軸の動きにつれて回転する装置と、ウッチリクブサーが回転する様子(下)



「鯉乗り童子」(左)は、秒針の動きに沿って回転する

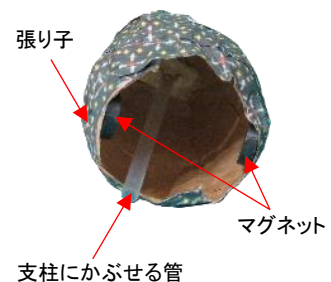
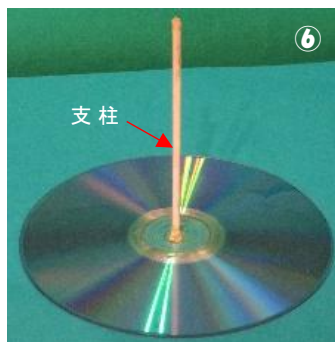
水を張った皿に浮かせた鯉乗り童子



ヤジロベエにした鯉乗り童子の張り子③。反対側に錘になるマグネットを取り付け、バランスと秒針への対応の二役を担わせる

### ・張り子の重心を下にして張り子の内部から支柱で支える

張り子自体をヤジロベエにして、支柱に載せる方法で張り子を回転させることもできます。そのためには、重心がなるべく張り子の下の部分にくるようにする必要があり、ウッチリクブサーの場合はマグネットを2つ取り付けておけば、時計の秒針のマグネットと対応するようになるため、一石二鳥です。



重心を張り子の下部にくるようにするため、マグネット2つを張り子の下部に貼り付け、時計の中央から垂直に立てた支柱で内部からウッチリクブサーを支える

よぎ せいいち  
那覇市首里崎山町在住

## 子どもの頃の遊びの思い出①

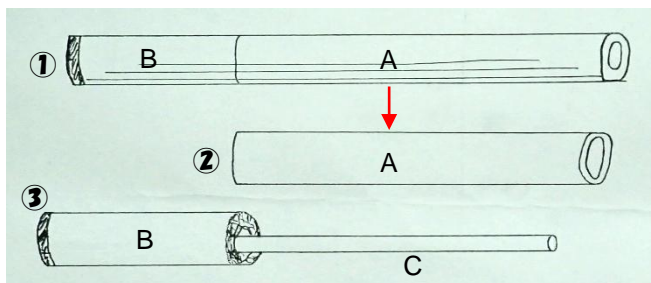
國吉 真隆

子どもの頃から首里鳥堀町に住んでいます。昔、子どもの頃に自分で作り友達と遊んだ紙でっぼうと水でっぼうなどについて、書いてみます。同じようにして遊んだ方もきっと多いことでしょう。

### ① 紙でっぼう

**材料:** ホウライチク(方言名:ンジャダキ)

**作り方:** ホウライチク一節分を、下図Aのようにして節を含まないように切ります。その竹筒の両端の穴から、濡らした新聞紙を丸めたものをしっかり穴を塞ぐように詰め、竹筒の下の方から竹の心棒を挿し込み、前方に押し込みます。そうすると紙の弾の間の空気が圧縮され、前のタマが飛び出すというお馴染みの仕掛けです。新聞紙のタマの代わりに、ゴモジュの実(グムル)を竹筒の両端に詰めて飛ばすこともありました。



#### ① 紙でっぼう

A: 筒(弾を詰め、心棒を挿し込む)

B: 握り(片方は節)

C: 心棒(Bの中でグラグラしないように詰め物をしてしっかりとめる)

#### ② 筒

③ 握りと心棒

B: 握り

C: 心棒

**紙でっぼう** Aの両端に新聞紙を濡らして丸めた弾を詰め、Cの心棒を筒Aに挿して押すと、弾が他の先端から飛び出す

### ② 水でっぼう

**材料:** ホウライチクより太くて、節間の長い竹を使います。

**作り方:** 片方に節を残したまま太い竹を切り、節にキリで小さな穴を開けておきます。細目の竹の先端を太い筒の穴の大きさに合わせてボロ布を強く巻き付け、それを太い竹の手前の穴に挿し込んで押し出すようにすれば、太い筒の先端の小さな穴から筒の中の水を押し出すことができます。勢い良く心棒を押せば、それだけ勢い良く遠くまで水が飛び出します。暑い夏に、友だちと水かけ合戦をして遊びました。

### ③ 竹とんぼ

**材料:** 枯れて乾燥した竹で簡単に作れましたが、遊びは長くは続きませんでした。

竹とんぼの他にメジロ籠なども作られていましたが、小さい子供にとっては難しく、完成するまでには至りませんでした。

宜野座村惣慶や南城市小谷では、今でも生活用品として竹籠や箆(ざる)などたくさんの竹製品が作られています。材料はほとんどホウライチクのようなです。以前は、首里あたりでもホウライチクの生垣が多かったのですが、最近では竹の生垣がブロック塀に代わってしまいました。

### ④ 独楽まわし

小学生の頃に一番よく遊んだのは、独楽まわしだったような気がします。独楽は自分で作ることができなかったため、工場を買ってきました。工場は守礼門の近くに2ヶ所あり、マーゴコールー(真和志こま)や当蔵にあったトウノクラコールー(当ノ蔵こま)がありました。独楽を買ってくると、まず床の上で回してみ、ちゃんと静かに回るかどうか確かめました。うまくまわらなければ、心棒の先を砥石で研いで細くするなどして調節したものです。

**遊びかたとしては:** 独楽まわしの遊び方としては、次のようなものがありました。遊び仲間ていろいろ工夫して、ルールを決めたりしたものです。

- ① 誰のコマが長くまわるかを競争する
- ② 2つのコマをまわして、ぶっつけあいの喧嘩をさせる(弾き飛ばされた方が負け)
- ③ 掌の上でまわして鬼ごっこをする
- ④ まず右の手の平の上でまわし、綱渡りで左の手の平に移動させて遊ぶ
- ⑤ 硬いひもやより細くて長いひもで回して遊ぶ

くによし まさたか  
那覇市首里鳥堀町在住

ヤエヤマヤシの一枚の小葉からいろんな動物を編み出し始めて早十数年、勝手にリーフクラフトと名付けて島の新しい文化を創造しようと日々葉っぱ編みを楽しんでいます。「100年続けば伝統工芸」だそうですからあと90年ほど頑張らなくてはヤエヤマヤシの葉っぱ編みを島の伝統工芸として根付かせようと画策していましたが、毎月開催していたリーフクラフト教室もコロナ騒動でしばし中断しています。それでも時々新作が編み出せているので、眼が見え指が動く限りリーフクラフトの魅力から逃れられそうもありません。

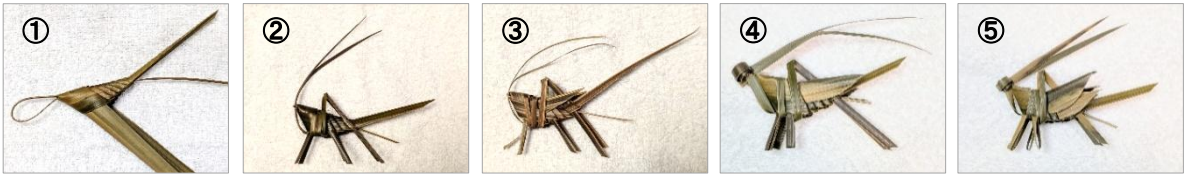
2006年から2017年まで、毎年夏の1ヶ月を仕事でマレーシアのリゾートホテルで過ごす機会がありました。空き時間が多くココヤシの木もたくさんあったので、ヤシの葉で何か面白いことができないかと始めたのがリーフクラフトの世界へのめり込むきっかけでした。最初のごくオーソドックスなバッタや馬を編んでいましたが、もっと立体的な躍動感のあるものを編みたい、いや編めるはずだとリーフクラフトの深みにはまっていった今日に至るという訳です。ヤシの葉でバッタを編む編み方は、東南アジアにも沖縄にも広く伝わっていますが、とても素朴なものです。これをよりバッタらしく見えるように改良してみようと新しい編み方を工夫したのが以下のとおりです。

### 1) バッタを編む

これはオーソドックスなバッタです。脚の作りがあまりにも簡単過ぎて、後脚は折り曲げた軸を突き刺すだけです。まずはバッタをなんとかしよう。よりバッタらしく、そして可能な限り一枚の小葉で、部品を付け足さずに仕上げたいとこだわりました。



オーソドックスなバッタ



- ① 基本の編み方はバッタの胴体です。尻尾の方から1段ずつ折り目の線の平行が乱れないように編むと仕上がりが綺麗
- ② 脚をしっかり編み込んでみた      ③ 翅を1枚付けてみた      ④ 眼も付けてみた      ⑤ 翅を2枚にしてみた
- ・あまり複雑にしない方が良いのかもしれない。こんなふうにバッタをいじっていると、新たな創作の可能性が見えてくる

マレーシアではココヤシの葉で編んでいましたが、石垣島のココヤシの葉はキムネクロナガハムシによる食害でボロボロになっていて使えませんでした。キムネクロナガハムシはヤシ科の害虫で、幼虫も成虫もヤシの展開前の新芽の中に潜り込んで柔らかい新芽を食い荒らし、新しい葉が展開したときにはすでにボロボロになっていることもあります。

そこで、いろんな種のヤシの葉を試してみたところヤエヤマヤシの葉が使えることがわかりました。ヤエヤマヤシも多少はキムネクロナガハムシの食害を受けることはありますが、今のところひどくはなっていません。陽当たりが良く風が当たりにくい所で育ったヤエヤマヤシの、上から2~3番目の葉を高枝切り鋸で切り落とし、小葉に切り分けて傷の少ない葉を選別し、充分乾燥させ、一晩ミョウバン水に浸けて柔らかくしてから編みます。ミョウバン水を使うのはカビ止めのためです。



さまざまな動物のリーフクラフト



オオトカゲのリーフクラフト

今では数十種類の動物をそれらしく編み上げることができるようになった

左のリーフクラフトは編み方は簡単で形もシンプルですが、私の一番のお気に入りのオオトカゲです。マレーシアで見たミズオオトカゲがモデルです。乾燥が進んで首が曲がったらそれはそれで面白い表情を見せてくれるとても可愛いオオトカゲです。

次号から1つずつ編み方のコツを説明しながら紹介していこうと思います。

たにぎきしげお  
石垣市宇新川在住

ヤマトウには紙相撲があり、トントン相撲やトントン紙相撲などと呼ぶようで、全国的な紙相撲の協会もあるとのこと。沖縄には紙で作った関取ではなく、オキナワツゲの実を使って遊ぶ類似の遊びがありました。何と呼んでいたのか思い出せません。ここでは便宜上その遊びのしづさから、トントン相撲と呼んでおくことにしましょう。オキナワツゲは定番ですがここでは割愛し、その他の植物の実や萼片などを使って、トントン相撲遊びの素材になり得るかについて、考えてみたいと思います。

### 1) クチナシ (萼片)

クチナシは実が熟すれば、長い萼片を付けたまま果実が膨らみ、やがてオレンジ色に熟れます。実はイワカワソウジミの食草です。トントン相撲で遊ぶためには、まだ緑のうちに採集することがよいでしょう。

折れないように注意しながら6枚の萼片を開いて置きますと、支点が大きく開き、重心が少し低くなるためより安定して、トントン相撲には強くなるかと思えます。



クチナシ

萼



トントン相撲  
(倒れた方が負け)

### 2) マツリカ (萼片)

マツリカの花は白でよい香りがしますので、ジャスミン茶に混ぜることがあります。庭木として植えられていることが多い植物です。

マツリカは花が散ると星状の萼片が残りますので、そのままトントン相撲遊びに使えますが、小さくて軽いためこの遊びにはあまり向いていないかも知れません。



花

萼片

トントン相撲(左の負け)

### 4) キダチベゴニア (花と萼片)

キダチベゴニアはその名の通り幹が高くなるベゴニアで、大きな葉と薄ピンクの花をたくさん付けます。萼片も花全体も立てることができますので、トントン相撲遊びに使えます。しかしながら、花も萼いずれもほどなく萎れてしまいますので、あまり長く遊ぶことはできないようです。

とはいうもののうまく扱えば、使えないことはありません。



キダチベゴニア

花



トントン相撲(倒れた方が負け)

### 5) ノウゼンカスラ (萼片)

ノウゼンカズラはつる性ですが幹や枝は硬く木本のような感じです。幹や枝からとびとびに気根を出して壁やほかの木の幹などにしっかりと着生します。春から秋口にかけてオレンジ色の漏斗状の花をたくさん付けます。

萼片は筒状で、先端が5つにさけて尖っていますので、立てることができますし、トントン相撲遊びに使うことができます。乾燥すればしぼんでしまいますので、長持ちしません。



花



萼片



トントン相撲(倒れた方が負け)

他にも、マングローブのオヒルギやメルギなどのように、トントン相撲に使えそうな萼を持った植物は多いですので、それらについては次回に取り上げて紹介したいと思います。他にも適した植物があるでしょうから、探してみたいと思います。

にしひら もりたか  
那覇市首里石嶺町在住